

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告

REC'D 15 APR 2004

WIPO PCT

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/04132	国際出願日 (日.月.年) 31.03.2003	優先日 (日.月.年) 29.03.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C17 G01P 21/00		
出願人（氏名又は名称） 独立行政法人産業技術総合研究所		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対して訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で _____ ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I 国際予備審査報告の基礎
- II 優先権
- III 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV 発明の単一性の欠如
- V PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ある種の引用文献
- VII 国際出願の不備
- VIII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 20.05.2003	国際予備審査報告を作成した日 30.03.2004
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 白石 光男 電話番号 03-3581-1101 内線 3214

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。PCT規則70.16, 70.17)

 出願時の国際出願書類

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
明細書	第 _____	ページ、	
明細書	第 _____	ページ、	
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項、	出願時に提出されたもの PCT19条の規定に基づき補正されたもの 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
請求の範囲	第 _____	項、	
請求の範囲	第 _____	項、	
請求の範囲	第 _____	項、	
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図、	出願時に提出されたもの 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
図面	第 _____	ページ/図、	
図面	第 _____	ページ/図、	
<input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	
明細書の配列表の部分	第 _____	ページ、	

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
- PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
- 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、スクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- この国際出願に含まれる書面による配列表
- この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
- 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
- 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
- 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
- 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- 明細書 第 _____ ページ
- 請求の範囲 第 _____ 項
- 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条 (PCT35条(2)) に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-34	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 2-6, 9-13, 15-19, 22-27, 29-31, 34 請求の範囲 1, 7, 8, 14, 20, 21, 28, 32, 33	有 無

産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-34	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: US 5000030 A (Agency of Industrial Science & Technology), 1991.03.19
 文献2: JP 5-273232 A (株式会社東芝), 1993.10.22

請求の範囲1, 7, 8, 14, 20, 21, 28, 32, 33に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1および文献2により進歩性を有しない。文献1に記載された衝撃加速度計の動的応答特性測定方法および装置において、文献2の図1, 5, 6に示されているように、「rod 2」を重力加速度方向に一致させることは、当業者が容易に想到することができたことである。

特に、請求の範囲8, 21に記載された「弾性波理論に基づく誤差補正」を行うことは、文献1の第6欄第47行-第7欄第12行に記載されており、請求の範囲32に記載された「スカラクの解析解の少なくとも1次の項を用いる」こと、請求の範囲33の「スカラクの解析解の高次の項迄を用いる」ことは、文献1の第6欄第47行-第7欄第12行から、当業者が容易に想到することができたことである。